

幼 兒 の 健 康 保 育 (二)

お茶の水女子大學助教授
愛育 研 究 所 員

平 井 信 義

三、入園當初の注意

幼稚園に上る、保育所へ通う、——このことは子供たちにとつて、人生最初の大きな誇りでありましょう。入園許可の通知をうけとつてから幼稚園に通い始めるまでの数週間、いたづらをして、お行儀を悪くしても、皆から幼稚園の生徒さん、として毎日毎日たしなめられていたのですから……。子供自身いままでのきかん坊を卒業して、いゝ子になろうと努力せずにはいられなかつたのですから……。

子供のこの緊張したこゝろにも増して、母親の緊張は一層強いことでありましょう。初めて親の手許を放す……この不安な氣持。然しいよいよ社會人としての第一歩を踏み出す我が子への祝福。幼稚園保育所での必要なものをあれこれと準備する。兎に角幼稚園にいつてお友達と上手に遊んでくれるかしら、保育所で弱いものいぢめをしないかしら、第一なじまないで毎日々々泣く様なことはないかしら……といやが上

にも母親のこゝろは興奮してくるでしょう。

この母と子のこゝろの緊張をたくみに誘導して、幼稚園或いは保育所という集團生活に無理のない様に導き入れるのがこゝろの衛生にとつて何より大切なことです。ですから始まつてからの数日間は、子供にとつても、母親にとつても、又保母さん方にとつては特に最も大切な日と言えましょう。

それにはどんな技術があるでしょうか？ すぐれた保母さんは、それを實に上手に導きます。私にはその上手さを何と表現してよいかわかりません。保母さんの笑顔が、保母さんの扱いが、保母さんの聲が、子供とその母親のこゝろの緊張をいつのまにか解放してしまふのです。いつの間にか、子供たちは安心して切つて母親の手をはなして皆と遊びはじめ、母親もこの保母さんにお預けしたなら、と子供に對する教育の責任を保母さんにすつかり負わしてしまつて肩の軽くなつた様にさえ感ずるのです。

この信頼を生むものは、保母さんの心から子供をいつくし

む氣持でありましょう。今更ながらそんなことを、と言われ
る方もあるでしょうが、私は毎春入園當初のその扱いをじつ
と見守りながら繰返し繰返しすぐれた保母さんの力に魅入ら
れているのです。

子供——母親——保母のつながり、或いは子供——保母
——母親、或いは、母親——子供——保母のつながりが、こ
の入園當初の数日にしつかり作られていけば、これからの保
育はいやが上にも素晴らしいものとなるでしょう。

之に反して信頼のおけない場所に子供を送るほど親の不安
は大きいでしょうし、親の不安の場所へ子供を出すことほど
子供にとつてもこゝろを疲らすことはありません。こゝろの
疲れはすぐに子供の表情や動作に現れて來ます、間もなくか
らだの疲れとなりましょう。夕方になると疊の上からだを
投げだしてごろごろすることでしょう。翌朝は幼稚園に行き
たくないというでしょう。たとえ出かけていつても、ぼんや
りと幼稚園・保育所の片隅で、元氣よく遊んでいる他の子供
たちを眺めていることになりましょう。

健康保育も、いわゆる保育の一翼であり且つ全體でありま
すから、保育の出發の日からよい歩みを始めていなくては、
當然豫期する様な効果を收めることは出來ないでしょう。健
康保育だけを切離してあれこれと言いつても、無駄の多い
ことは、私が日頃から痛切に感じていることなのです。

何といつても、入園當初は、子供にとつて新しい生活が俄
かに展開したのです。強さうな子供が遊戯場をわがもの顔に

占領しています。いろいろな遊具があるが、使つていゝのや
ら、手をふれていゝのやらわかりません。お便所にゆきたく
なつたら先生に言うのですよ、といわれて來たが、言おうと
思つても、先生は向う向いていて、聲をかけることが出來ま
せん。いろいろ子供のこゝろを塞ぐことが多いのですから、
殊に氣の弱い子供には細かく氣を配つて扱いたいものだと思
います。

この様に入園當初、いちばん問題となるものは疲労でしよ
う。子供の疲労を少くするために、しばらくの間お辨當もな
いのが普通です。然し私は前述の様な考えから、すぐれた保
母さんがいたときに、はじめからお辨當にすることを主張し
て、試みたことがあります。別に子供たちは疲労を感じるこ
ともなく、母親たちからも大變喜ばれたのですが、保母さん
の方の心勞と、からだが大變なので、翌年からは中止してし
まいました。初めの一月、保育時間を少くすることは、子
供のためよりも、むしろ保母さんの疲労を救うために必要と
さえ感じました。

子供の疲労が家庭に歸つてから現れていないかどうか、初
めはよく母親と連絡を取りたいものです。連絡帳を上手に利
用して、幼稚園での疲れている状態などを知らせてやること
も大切なことでしょう。家庭からの連絡も、出來るだけくわ
しく書いてもらう様にしましょう。

殊に虚弱體質の子供については、特別に保母さんが目をか
ける必要が出來て來ます。子供の數が多い幼稚園・保育所でし

たら、十人乃至十五人、そういう子供のグループを作ること
を考えねばならぬでしょう。そして最初は、出来るだけ環境
との摩擦を防ぐ様にしながら、次第に鍛錬へと向けてゆけば
弱い體質の子供でも、丈夫にすることさえ望めます。母親か
ら「弱くて困る子供」と言つて託されても、保母さんは決し
ておどおどしたり、腫れものにさわる様にしてわななませ
ん。さうした子供こそ、幼稚園・保育所での生活を通して、
丈夫にしてみせる、という強い決意が大切であります。具體
的な方法については後述する豫定で居ります。

入園當初は、慣れぬまゝに忙しく、忙しいために落付かな
くて、そのどさくさにまぎれて傳染病がはびこり、出鼻をく
ぢかれることがあります。最も注意をしたいのは麻疹（はし
か）で、この病原體の傳染力は非常に強いので、遂には幼稚
園を閉鎖しなければならぬ悲しいはめに陥ることがありま
す。流行の年には四、五、六月まで猛威をふるうことがあり
ますから、兎々も注意が大切です。水ぼうそうやお多福かぜ
も流行することがあります。或いは結膜炎が次々と染つてい
つた例もあります。

更に入園當初は母親に、おやすみさせたくないという氣持
があり、子供もいきたくてせびると、少々病氣も押して幼
稚園・保育所にやつて來ることがありますから、朝の視診は
決して忘れぬ様にお願ひします。

繰返し申しますが、初めの半月乃至一と月は、保母さんに
とつて本當に大變なことで、兎角勞働過重となり、疲勞が積

重なります、やつと保育が落ちついた五月、六月に、どうも
體の具合が悪い、といんきくさい顔をしなない様、はじめから
ビタミン類を補給し、充分休養をとつて、子供たちをいつも
よく導いていたゞきたいと念じます。

四、調査について

保育がはじまると、或いは始まる前に、何をおいても調査
しておかねばならぬのは、傳染病の既往歴であります。

麻疹、百日咳、ジフテリア、猩紅熱、おたふく風、水ぼう
そう、風疹、日本腦炎など、急性傳染病について、かゝつた
ことがあるかどうか、その年月日、軽い重いをしらべておく
のです。

その意味は、(1)もしこれらの傳染病にかゝつていれぼ
大體二度とかゝることがないから、たとえ流行していてもそ
の子供たちは心配がないわけ、(2)かゝつていない子供た
ちには、百日咳、ジフテリアなど豫防注射のあるものは早速
する様にする、(3)豫防注射のない病氣には絶えず注意を
怠らない、………といういろいろな構えを作ることにあるので
す。

之らを一目でわかる表にしておいて、一朝事あるとき、
例えば麻疹の子供が出た、というときには、その表を見て、
未罹患の子供に血清注射を施す様、その日の中に通知して、
災害を最小限に止めることが出来るのです。

この既往歴調査と一緒に、ジフテリアや百日咳の豫防注射

を以前にしたことがあるかどうか、訊ねておくことも便利でしょう。百日咳の方は一年に一回しておかねばならないからもし去年の暮にしているとすれば、未だする必要がないわけ一昨年というならば、必ず今回もしておくことが大切、ジフテリアに到つては二―四年効力があるといわれていますから去年したというならば急いでする必要はないという判断がつきます。

兎角幼稚園・保育所は傳染病の媒介所という印象を巷間の人々に與えずがていましてから、充分に注意を重ねたいことでもあります。

次いでツベルクリン反應の陰性か陽性か、陽性ならば自然感染かB・C・Gによるものかを知つておくことが大切です。陰性の子供で、B・C・Gで陽轉している子供には、早速ツベルクリン反應をして、免疫の状態をしらべてもらはなければなりません。

もし過去に結核菌による病變（肺門淋巴腺炎、肺浸潤、肋膜炎など）のあつた子供には、すつかりおさまつているかどうか、この爲に體がどんな影響をうけているか、之は調査用紙が歸つて來たら、早速に家人にきゝたゞし、家庭の話があまりまいなときは、一度醫者にみてもらうことをすゝめます。

この他ついでに、疫痢（赤痢）肺炎、消化不良症などについて同様に調査しておくことが必要であります。

更に病氣の傾向についてしらべておくことも保育の上で大切ですから、同じ調査用紙の中にはめておきましょう。風邪

はひき易いかどうか——この中を更に細分して、風邪をひくと熱になる、咳になる、下痢を伴う、扁桃腺をはらす、氣管支炎を起し易い、などの項目につき知つておくことは便利でしょう。

風邪の他に、おなかをこわし易いかどうか、頭痛を起し易いかどうか、貧血を起し易いかどうか、ひきつける、汗をかき、皮ふが弱い、しもやけ、あかぎれ、鼻汁、目のたぐれ、耳を悪くする……など平生に起し易い病氣の傾向について書いてもらいましょう。

その他に、夜尿、夜驚、頻尿、偏食、むら食、爪かみ、指しやぶり、どもり、左利き、臥位などについても、家庭での様子を知つておくことが大切です。

之ら體質とか癖についても、あとで詳しくお話する豫定であります。幼稚園・保育所のはじめに、急性傳染病の既往症調査と共に、調査項目の中に入れておくとよいでしょう。

慌てゝ調査をする必要はないが、知つておかねばならぬのは、環境調査であります。之は、子供の家の状態、その附近の様子、家族や同居者などについて、出来るだけ詳しく書いて、その子供が育つてゐる生活環境が頭に浮ぶ様にしたいたいものであります。家庭訪問も早急に出来ませんから、一と先づ之で輪廓を得、子供のプロフィールを作り上げたいのがねらいであります。

環境としては、自分の家か、借家か、アパートなどの様に間借かどうか、それが一戸建になつてゐるか長屋か、間敷・

疊數・家族の數、——これらで大體その家が建つてゐる様子とその使い方を知ることが出來ます。例えば自家・一戸建・間數は二室・疊數八・五疊であれば、戦後にたてられた簡易住宅が考えられ、家族四人とすれば今の日本としてはさう無理のない住宅といえます。保育所の子供でしたが、家族八人に四・五疊の間借というのがありました。寝るのに〇・五疊、これでは誰か押入れに入るかしくなくてはならないでしょう、子供も充分な睡眠がとれないのではないでしようか、とに角こんは子供はよく注意して見守つていてやりたいものです。

日當りの良否・採光・濕氣など、電車通り・商店街・住宅地・工場地・田畑の中など、それに關連して周圍が靜か、否かをしらべます。人的環境として、遊び友達の有無・その性人數など、母親で分る程度に書き込んで貰ふこと——之らにより子供がどんな處で一日の二分の一を送つてゐるか、知ることが出來ます。

家族關係としては、父母の體の大中小、肥つてゐるか瘦せてゐるか、健康か病氣が多いか、既往疾患として結核・梅毒・淋病・脚氣など、或いは流早死産がないかどうか、酒や煙草をたしなむか否かその程度、をしらべます。之も保育所の子供の父親でしたが、アルコール中毒と書いて來たものがありました。子供も問題の多い可哀想な子供でありました。

同居してゐる祖父母があれば、その健康状態につきかんだんにしらべます。健康か病氣かとして、括弧の中へ喘息の有

無位を書いてもらうこともよいでしょう。喘息はしばしば慢性の結核であることがありますから。

兄弟については、年齢と健康状態を書いてもらいます。死んだ子供についても書き入れてもらった方が役に立ちます。

この用紙には、子供の出生時の模様、乳兒期、幼兒期の育て方についての項目をつけるのがよいでしょう。出生については、目方、熟産か早産か、安産か否か、双子であればそれを記入します。妊娠中の母の健康について、つわりの程度と共に書き入れてもらいます。之らのしらが何の役に立つかということですが、はつきりした目安はないが、子供の虚弱と關係はしまいか、という見方があるからです。或る年には不思議なつわりの重いお子さんが揃つたことがあります。が、恐らく偶然だつたのでしよう。

乳兒期としては、母乳・混合・人工の別、離れ開始と終了の時期、などをしらべるのは意味があります。殊に母乳を規則正しく與へたか否かなどと合せて、近頃やかましく精神分析の一派がいう、乳兒期の育て方と大きくなつてからの性格の關連を求めて見るのも意味深いことでしょう。

その他、乳兒期には誰が一番お守をしたか、その後幼兒期に入つてからは誰か、ということも性格を分析してみる際に必要だと思ひますが、體質の上にも又意味のあることです。

(つづく)